

科目担当者氏名		科目担当者連絡先(メールアドレス)	
(ふりがな)	ささき ひろし		
佐々木 宏			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	にしむら たけお	広島大学	
西村 雄郎			
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会環境調査Ⅰ 社会環境調査Ⅱ	HRMa-111401-2 HRMa-111402-2	15	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：このたびの調査実習では、調査の下準備、量的調査と質的調査の実施、データ整理、報告書執筆など、調査の企画実施にかかわるすべてのプロセスに学生が参加した。下準備の中には、調査対象者(団体)から調査協力を得てくるための交渉も含まれており、科目担当者としては社会調査のフルパッケージを学生に経験させることができたと考えている。学生諸君は、試行錯誤しつつもこれらの課題をやり遂げ、全員で実習を終えることができた。

II. 調査の企画・設計(デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：日本の反貧困運動の現状と課題を明らかにすることをテーマとした。
2. 調査の内容/概要：生存権保障の実現をかかげ活動する「生活と健康を守る会」(以下、生健会)の会員を対象とし、アンケート調査と聞き取り調査を実施した。
3. 調査の範囲/対象(量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：アンケート調査は、広島県内で活動する15の地域生健会(全会員数1493人)のなかで調査協力を得ることのできた8地域の会のすべての会員(1073人)を対象に実施した。聞き取り調査は、アンケートで明らかになった会員属性の傾向(特徴)に応じて、前述の8地域の生健会の会員のなかから22人を選択し実施した。
4. 主な調査項目：アンケート調査では、会員の年齢、性別、所得、職業などの社会経済的屬性について、次いで活動参加の動機や活動への思いなど会についての意識を質問した。聞き取り調査はアンケート調査の質問をベースにしつつ、加えて生活史を丁寧に聞き取った。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集(現地調査)の方法：アンケート調査では、各地域生健会の事務局に調査票の配布を依頼し、回収は広島大学への郵送という方法をとった。聞き取り調査は1事例につき2~4時間程度の時間を使い、事前に用意した質問紙に沿って聞き取りをすすめた。その場でやりとりは許可を得てすべて録音し、後日、逐語でテキスト化した。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：アンケート調査は、調査票を2011年8月~11月の間に配布し、2012年1月末までに回収を完了した。聞き取り調査は2011年10月~2012年1月の間に実施した。聞き取りを実施した場所は、調査対象者の自宅、各地域生健会の事務所、広島大学の演習室など、静穏な環境である。聞き取り調査に参加した調査員は1事例につき2~3名とした。
7. 収集したデータの量と質への評価(量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：アンケート調査の有効回収率は390、回収率は36%である。回収率はほぼ見込みどおりであった。聞き取り調査では、会員の社会経済的状況や意識について、アンケートで得られたもの以上の豊かな情報を得ることができた。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：アンケート調査のデータは、統計ソフト(SPSS16.0)に入力し、各質問への回答の度数分布表といくつかの変数を選んでクロス集計表を作成した。聞き取り調査のデータは、入会の経緯、活動のやりがいや困難、会への要望など、反貧困運動としての生健会を評価する上で重要となるいくつかのポイントに絞って整理した。
9. 調査の成果(調査から得られた主な知見など)：アンケート調査の結果からは、生健会は貧困当事者中心の反貧困運動の典型であることが明らかになった。聞き取り調査では、貧困当事者が反貧困運動に参加・継続することの苦勞や困難、また困難を抱えつつ活動を続ける人々の思いなどが明らかになった。
10. 報告書刊行の予定と概要：2012年3月に調査報告書「広島県の「生活と健康を守る会」調査の報告」を刊行した。3章立ての構成とし、第1章で生健会の概要、第2章でアンケート調査の結果、第3章で聞き取り調査の結果を示した。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。